

平成艸紙



おりおりの記

証券界の『働き方改革』

日本証券業協会
会長

鈴木 茂晴

私が営業マンであった若い頃、早朝から深夜までというハードワークで、上司が部下を叱咤する声が響き、夜遅くまで電話をかけて株式や投資信託等を勧誘していた。支店全体が「遅くまで仕事をするのが当たり前」という雰囲気であった。ただ、実際は昼間に喫茶店で休んだり、昼寝をしていたりなど、仕事以外の時間を挟みながら働いていた。

このような若い頃の経験から、私は「休み休み時間を挟みながら深夜まで働くような長時間労働は、本当に正しいのか」と考えるようになり、2004年に大和証券の社長に就任してから、従来の「体力勝負の仕事」からの決別を図ることを強く意識するようになった。就業時間内に最大限の力を発揮して仕事を済ませ、できるだけ早く退社することで、男性社員も女性社員も家庭と仕事が両立しやすくなったり、また語学などの勉強や趣味の時間を費やしたりすることで人間的な魅力が増し、顧客へのアピール力にも繋がるのではないかと考えた。そこで2007年に導入したのが、社員の「19時前退社」の励行であった。

当初はこの「19時前退社」に、社内から反対の声があがったが、「勤務時間中に100%以上の力を発揮して、限られた時間で成果を出すように」という制度の意義を伝え、「これは絶対にやる」と

強い意志で臨んだ。その結果、会社全体が大きく変わった。社員一人ひとりが仕事のやり方をしっかり考えながら進めるようになり、効率が

よく、密度の濃い仕事をしてくれるようになった。

私は、昨年7月に日本証券業協会の会長に就任して以来、証券界全体の「働き方改革」を強く推進している。具体的には、国連、政府が推進している「SDGs（持続可能な開発目標）」で掲げられる社会的課題を証券界全体で取り組むため、私が座長となり懇談会を立ち上げ、その懇談会の下に設置した3つの分科会の中の1つの分科会で、証券界の「働き方改革・女性活躍支援」について検討を行っている。

「働き方改革」が日本全体のテーマになっている今こそ、昔からの常識で続いてきた不合理な仕組みを取り除き、生産性を向上する絶好の機会である。今後、証券界全体の生産性向上やディーセント・ワークの達成を目指すとともに、女性活躍の更なる促進を図っていきたいと考えている。

